

AALA ニュース 98号の内容紹介

編集部

今号は中国情勢を中心に3本の記事が掲載されます。どの記事も3, 4本分くらいのボリュームがあるので、覚悟して読んでください。

1. 武市一成「香港報道はなぜ歪んでいるのか」

埼玉学園大学の武市一成先生が書かれた論文で、正式題名は「**日本メディアの地政学観点からの香港報道の危うさ/未解決の日本の植民地主義**」となっています。メディアで描かれている香港像とはまったく異なる状況が、そこには示されています。

「日本に絶対的に求められているのは、朝鮮半島、台湾海峡、深圳・香港に渡る分割線に規定される、冷戦構造の枠組みから脱却するあらゆる努力である」という結論が、とても印象的です。

もともと英語論文で、編集部が許可を頂いて訳しています。

2. 岡田充「日米が台湾有事で共同作戦計画」

共同通信客員論説委員の岡田さんの論文で、第135号に掲載されたものです。

正式題名は「戦争シナリオを放置していいのか…日米が台湾有事で共同作戦計画」です。「台湾有事論」の**本質**を鋭くえぐった**必読**文献です。

著者の了解を得て転載させていただきました。

3. 小松崎榮「米国の覇権争いと非同盟運動の役割」

日本 AALA 顧問の小松崎さんのレビューです。メインは米中問題で、あわせて人権論も展開されています。

論文1、論文2との違いもあるので、読み比べていただくようお願いいたします。

4. は上記論文の資料集です。合わせてご参照ください。